

中学部3年生が、「高等部体験」を通して見つめたもの ―中学部から高等部へ、中高一貫キャリア教育 本格実施―

前号で、中学部3年生の学年団に「次」へ向かう力が生まれていることを紹介しました。その「静かな熱」が、今、具体的な学びとして動き始めています。

今回紹介したいのは、昨年度に試行し、今年度から教育課程に位置付けて本格実施している、中学部3年生の「高等部作業体験学習」です。

キャリア教育では、「将来のことを考えよう」、「働くために必要な力を身に付けよう」と言葉で伝えることも大切です。しかし、それだけでは、生徒自身の「やってみたい」、「こんなふうになりたい」という思いには、なかなかつながりません。私たち大人もそうであるように、百聞は一見に如かず。実際に見て、聞いて、やってみる。そして、「すごい」、「自分もやってみたい」、「ここは頑張りたい」と感じる。そうした実感のある学びを、中学部から高等部へつないでいきたいと考えています。

虹の原では、中学部から高等部へ進学する生徒が多くいます。だからこそ、入試を経て高等部へ進むだけでなく、中学部の段階から「この学校で、こんなことを学んでみたい」と期待や動機を育てていくことが大切です。

昨年度、「中高一貫したキャリア教育の実現」を学校運営方針に掲げ、高等部の作業学習を体験する取組を試行しました。その中で見えてきたのは、作業そのものだけではありませんでした。高等部の先輩の姿を間近で見ることで、「自分もあんなふうになりたい」と思う。実際に作業してみることで、「ここはできる」、「ここはもっと頑張りたい」と自分自身を見つめる。そして、高等部での学びを「自分のこと」として考え始める。この時間が、中学部3年生にとって、キャリア教育の中核となる時間の一つになり得ることを実感しました。

そこで今年度からは、教育課程に位置付け、全4時間から全8時間へと拡充しました。さらに、中学部と高等部の教師それぞれ一人を「中高一貫キャリア教育推進担当」として進路指導部に位置付け、学部を越えた連携を進めていくことにしました。

全8時間の体験を終えた後、中学部3年生全員に「高等部体験 振り返りシート」を記入してもらいました。今回は、この振り返りから見えてきたことを、「**中学部3年生が『見つめた』もの**」として紹介します。

① 「高等部の学び」に触れる

中学部3年生 22 名が、それぞれ二つの作業班を体験しました。体験したのは、単に「班を見学すること」ではありません。ストラップや布製品をつくる。粘土を成形し、磨く。野菜を収穫する。車を洗う。石鹸をつくる。ポチ袋をつくる。木材を切り、組み立てる。実際に材料に触れ、道具を使い、工程に沿って作業しました。高等部では、こんな仕事をする。こんな道具を使う。こんなふう先輩たちが働いている。

これまで漠然としていた高等部での学びが、一人一人の具体的な経験になりました。

そして、ここで忘れてはいけないのが、高等部の先輩たちの存在です。先輩たちは、いつもの作業をしながら、時にはやって見せ、時には教え、後輩たちの学びを支えてくれました。先輩たちにとっては「いつものように」取り組んでいる姿が、中学部3年生にとっては、新しい世界との出会いだったようです。

高等部の皆さんには、ぜひ、このことを誇りに思ってもらいと思います。皆さんが身に付けてきた作業の力、働く姿、仲間と協力する姿は、後輩にとって「こうなりたい」と思う姿そのものになっています。

② 「できた」だけでなく、「自分の課題」にも気付く

中学部3年生たちは、それぞれの体験の前に「最後までがんばる」、「丁寧に作業する」、「報告や相談をする」、「指示を聞く」など、自分なりの目標を決めました。

体験後には、「◎よくできた」、「○できた」、「△できないことがあった」の三段階で、自分自身を振り返り

ました。

自己評価は、実に 95.5%が、「できた」または「よくできた」と自分自身を評価しています。

◎「よくできた」……………19 件(43.2%)

○「できた」……………23 件(52.3%)

△「できないことがあった」…… 2 件(4.5%)

これは、8時間の体験を通して、「自分是可以する」という手応えを得た結果として、大切にしたい数字です。

一方で、「△」にも大きな意味があります。「質問をするのが難しかった」、「ハサミの使い方を頑張りたい」、「挨拶や返事はできなかった」など、自分の課題を具体的に捉えている生徒がいました。大切なのは、△を「できなかった」で終わらせないこと。「ここが難しかった」、「ここは、まだできるようになりたい」、「次は、こうしてみよう」など、実際にやってみたからこそ、自分の「できること」と「もっと頑張りたいこと」が見えてきたようです。

そして、「先輩の話を聞いて、きれいに作ることができた」、「先輩から褒められてうれしかった」という言葉もありました。先輩にとっては、いつもの作業や声掛けだったかもしれませんが、その一つ一つが、後輩にとっては「できた」という自信や、「もっとやってみたい」という次の一歩につながっています。

③ 先輩の姿から、「こうなりたい自分」を見つけた

「高等部の先輩の姿を見て、『すごいな、こうなりたいな』と思ったこと」を尋ねました。

- ・ 先輩みたいにきれいな製品を作りたい。
- ・ 先輩みたいに集中して作業したい。
- ・ 先輩のように挨拶や報告ができるようになりたい。
- ・ 優しく教えてくれた先輩みたいになりたい。
- ・ 先輩のように後輩に教えられるようになりたい。

中学部3年生が見つめていたのは、作業の技術だけではなく、集中して仕事に取り組む姿、丁寧に製品を仕上げる姿、挨拶や返事、報告をする姿、困っている人に声を掛け、優しく教える姿。

「上手に作る」だけではなく、「どのように仕事をする人になりたいか」まで、先輩の姿から感じ取っていました。そして、「先輩がすごかった」で終わっていません。「私もなりたい」、「できるようになりたい」、「こうなりたい」と、自分自身のこれからへとつながっています。

先輩から後輩へ。そして、また次の後輩へ。高等部の先輩たちが積み重ねてきた「働く姿」が、中学部3年生のあこがれになり、「自分もこうなりたい」という目標になっていました。

④ 高等部を体験して、「自分のこと」が見えてきた

「高等部を体験して気付いたこと、良かったこと」には、次のような言葉がありました。

- ・ 楽しく作業できた。
- ・ 最後まで頑張れた。
- ・ 高等部の先輩と一緒に作業できて良かった。
- ・ 高等部の先生に褒めてもらえて嬉しかった。

一方で、次のような気付きもあったようです。

- ・ 作業時間が長いことが分かった。
- ・ 暑い中作業するときついのが分かった。
- ・ 自分が苦手なことに気付いて良かった。

実際に8時間体験したからこそ、「高等部では、これくらいの時間、仕事に取り組むんだ」、「集中して続けることが必要なんだ」と、これまで知らなかったことが具体的に分かったようです。

さらに、次のような言葉もありました。

- ・ ポチ袋づくりが自分に合っていた。
- ・ 自分には洗車班が向いていると分かった。

高等部を知ることを通して、自分の得意なこと、難しいこと、これから伸ばしたいことも見えてきたようです。

高等部体験は、「高等部を知る」だけでなく、「自分を知る」時間にもなっていました。

⑤ 「これからの自分」に向けて、目標を見つけた

「これから頑張りたいこと」には、今回の体験で感じたことや気付いたことが、そのまま「これからの自分」の目標として表れていました。

- ・ 仕事は丁寧に集中して取り組む。
- ・ どんなことも最後まであきらめずに頑張る。
- ・ 挨拶と返事を頑張る。
- ・ 報告、連絡、相談を頑張る。
- ・ 体力を付けたい。
- ・ 体調管理を気を付ける。
- ・ 失敗したり、間違えたりしたときに泣いたり、怒ったりしない。

これらは、単に作業の技術を高めたいということだけではありません。働くこと、人と関わること、自分自身を整えること、そして自分でこれからを考え、進んでいくこと。「難しかった」という気付きが、「次はこうしたい」という目標になり、「先輩みたいになりたい」という憧れが、「自分もこうなりたい」という願いになっています。

⑥ 「高等部で、こんなことをやってみたい」へ

そして、「高等部でやってみたいと思った作業班」を尋ねると、22 人のうち 20 人が具体的な作業班を挙げました。「洗車班」「手工芸班」「農園芸班」など、一人一人、興味をもった作業は違いました。

- ・ これは楽しかった。
- ・ 自分にはこれが合っているかもしれない。
- ・ 高等部で、こんなことをやってみたい

実際に体験したからこそ、自分の興味や得意なこと、これから学んでみたいことを考え始めるきっかけになったようです。

さらに、「虹の原の高等部を受検したいか」と尋ねると、15 人が「はい」と答えました。「考え中」などとする生徒もいました。大切なのは、今この時点で進路を決めたかどうかではありません。「高等部に行く」から、「高等部で、こんなことを学んでみたい」という意識をもつことが大事だと考えます。8時間の体験を通して、高等部が少しずつ「自分の次の学び」として中学部3年生全員が見えてきたのだと思います。

まとめにかえて。

今回の8時間を通して生まれた「やってみたい」、「こんな自分になりたい」という思いを、次の学びへつないでいくことが、キャリア教育の大切な役割です。中学部から高等部へと学びをつなぎながら、子どもたちが自分の可能性に気付き、「もっと学んでみたい」と思える時間を、これからも丁寧に積み重ねていきたいと思っています。今年度も、この時期に中学部3年生の心に「やってみたい」の熱い気持ちを灯せたことは、必ず次の大切な一歩に繋がっていくものだと感じ、その一歩を支える虹の原らしい学びを次年度も大切にしていきたいと思っています。



やってみよう！ もう一度やってみよう！ 最後までやってみよう！

一歩、二歩、三歩。その先へ

この言葉を大切に、魅力ある虹の原の教育を育んでいきます。

～R8年度 学校経営方針の実現に向けて～